

令和3年8月 学校長だより 高千穂高校

令和3年8月17日

「聞いたことは、忘れる。 見たことは、思い出す。
体験したことは、理解する。 発見したことは、身につく。」

校長 佐伯 浩 美

記録的な大雨が各地で降り続けている。河川の氾濫や土砂崩れによる被害が起きている。自然豊かな西臼杵の山や川が、被害を映し出すテレビの画像と重なり心配になる。遠方から通う生徒の通学路は？通学途中に災難に遭遇したら？道が寸断されて通学できなくなったら？などなど、いらぬ妄想が頭の中を駆け巡る。これから台風の季節を迎える。停滞する前線が押し上げられ、高気圧が張り出したら熱中症が心配になる。心配事の尽きない毎日が、早々と過ぎていく。24日から2学期が始まる。

さて、7月22日から夏休みに入った。が、休む間もない高千穂高校生の活躍する姿を多く目にした夏休みであった。23日、日南市で開催された宮日杯宮崎県小中高剣道選手権大会には、審判長として参加した。高校1年・3年男子、高校2年女子の各部で優勝した。特に高校3年男子のベスト4独占は、剣道強豪校高千穂高校の名を、参加する小中学生剣士やその保護者達に、さらに強く印象づけた。

26日から30日まで普通科の夏期講座（課外授業：1・2年午前4限、3年生午前午後6限）に引き続き、8月に入り3年生は、就職・公務員学習会を4日まで実施した。特進クラスは、3・4日延岡星雲高校でフロンティア科と合同学習会を初めて行った。受験まで170日を切った両校の3年生が緊張感の中に充実した、学力を競い高め合う取り組みを行った。

生き物を育て、命の尊さを間近で学んでいる生産流通科の生徒は、班別に登校日が割り当てられ、農業実習に汗を流した。Aコープ高千穂店前で2日間の「安信茶」販売実習は、夕方まで購入者が途切れることなく続いた。今年も大好評であった。生徒の頑張りにも、笑顔でアイスクリームを差し入れして下さった地域の方、それを笑顔で食べるあどけない高校生、地元密着の高千穂高校ならではの素晴らしい光景を目にして、ほっこりした。

ボランティア活動に生き生きと取り組む生徒もいた。高千穂神社の沿道に並べられる「竹灯籠」を高千穂町観光協会内で制作したグループである。誰かのためではなく、自分のできることを積極的に挑戦し、自分を高めようと楽しく活動する生徒の姿を見て、頼もしく嬉しく思えた。また、学習ボランティアに参加する生徒もいた。夏休みの宿題を持ち寄る、高千穂町内の小中学生に高校生達が、高千穂町管理センター、下押方公民館、上野公民館、田原出張所で学習指導を行った。高校生が小中学生に、指導をする傍らで、校長でご退職された先生方も熱心にご指導をされていた。退職校長皆さんから高千穂高校の充実発展を願う激励の言葉を沢山いただいた。地域や母校への熱い思いを強く感じた。高千穂高校には、ボランティア精神旺盛な生徒が多く在学している。学校のみならず地域の誇りである。

自ら体験し理解した新たな発見は、自信となり大きな成長につながる。生徒の自主性を尊重したい。その裏には、生徒達が自ら取り組む仕掛け作りができる学校でありたい。